

# 勝山市の小中学校の望ましいあり方について

検討委員会報告書

平成19年3月19日

勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会

## 目 次

はじめに	1 ~ 2
1 検討委員会設置の経緯と勝山市の学校をとりまく課題	3 ~ 5
2 検討委員会の経過報告	6
3 検討委員会の最終報告	7
4 各年度検討委員名簿	8 ~ 9
5 参考資料	
対話集会・説明会等と作成資料	P 1 0
各小学校の平成18年～24年の児童数の推移	P 1 1
平成18年年齢別人口	P 1 1
各中学校の平成18年～30年の生徒数の推移	P 1 2
平成18年までの中学校生徒数推移と平成18年度以降の推計	P 1 3
平成18年各校区・地区 年齢別人口	P 1 4 ~ P 1 6
小・中学校及び幼稚園・保育園保護者アンケート調査結果	P 1 7 ~ P 2 0

## はじめに

少子化にともない児童生徒が著しく減少する中で、地域に開かれた魅力ある学校づくり並びに小中学校の適正な配置について検討するため、平成16年度から18年度までの3年間にわたり検討委員会を設置した。本委員会は、市内各界各層の代表者で構成し、平成16年度6回、平成17年度4回、平成18年度5回の委員会を開催した。

この間、各地域で対話集会を持ち、住民の方々に児童・生徒の人数が大きく減少している現状を説明するとともに広く意見をお聞きして、本問題についていろいろな角度から勝山市の小中学校の“望ましい教育のあり方”について慎重に検討した。

### 検討委員会の開催報告

#### 16年度

##### 第1回 7月7日

- ・ 委嘱書交付、委員長、副委員長選出
- ・ 当市の児童生徒数の現状と今後の推移について説明

##### 第2回 8月3日

- ・ 地域に開かれた勝山市の望ましい教育のあり方について意見交換

##### 第3回 9月14日

- ・ 児童生徒数の減少に伴う望ましい教育のあり方について意見交換

##### 第4回 10月22日

- ・ 幼児問題検討委員会及び幼稚園問題検討委員会答申後の経過について説明
- ・ 少子化による児童生徒の推移とこれからの教育の方向性について意見交換
- ・ 特別認定校制度について説明

##### 第5回 12月7日

- ・ 学校と地域の関係について意見交換

##### 第6回 2月17日

- ・ 県下8市の小中学校統廃合の状況報告
- ・ 勝山市の地区別の人口と世帯数について説明
- ・ 16年度の間接報告について検討

#### 17年度

##### 第1回 6月29日

- ・ 委嘱書交付、委員長、副委員長選出
- ・ 市民対話集会の結果について報告
- ・ 各地区の児童生徒数の実態と推移について説明

- ・ 望ましい学級・学校規模について意見交換
- 第2回 9月27日
- ・ 各地区別対話集会について報告
  - ・ 旧美山町における小中学校統廃合の事例報告
  - ・ 小中学校の統廃合のあり方について意見交換
- 第3回 2月7日
- ・ 特別認定校視察結果報告
  - ・ 市PTA連合会と市教委の対話集会結果報告
  - ・ 小中学校の保護者に対する説明会の実施報告
  - ・ 幼稚園・保育園の保護者代表と市教委の対話集会について報告
  - ・ アンケート調査内容について検討
- 第4回 3月16日
- ・ 小中学校保護者対象アンケート調査結果報告
  - ・ 17年度の中間報告について検討

#### 18年度

- 第1回 6月22日
- ・ 委嘱書交付、委員長、副委員長選出
  - ・ 児童・生徒の推移について説明
  - ・ 小中学校の統廃合について意見交換
- 第2回 8月24日
- ・ 幼稚園・保育園の保護者対象アンケート結果報告
  - ・ 小学校の統廃合について検討
- 第3回 9月25日
- ・ 中学校の統廃合について検討
- 第4回 10月31日
- ・ 小中学校の統廃合について検討
- 第5回 11月30日
- ・ 検討委員会の最終報告書検討(総括討議)

## 検討委員会設置の経緯と勝山市の学校をとりまく課題

### 1 小中学校の望ましいあり方検討委員会設置の経緯

21世紀を力強く生き抜く児童・生徒の育成を図ることが今求められている。そのためには、学校の果たす役割を今一度見直し、時代に即した学校教育のあり方を考えることが必要である。

また少子高齢化により、今後児童・生徒の著しい減少が見込まれる中、学校の望ましい規模の観点から、学校の統廃合について検討することが求められた。

そこで教育委員会では、「小中学校の望ましいあり方」検討委員会を立ち上げ、次の二つの観点で、学校の活性化を図るため、平成16年度から平成18年度まで3年間をかけて検討を始めることになった。

第一の観点は、「地域に開かれた魅力ある学校づくり」であり、第二の観点は、「学校の適正規模から見た望ましい学校づくり」である。

#### (1) 地域に開かれた魅力ある学校づくり

学校の教育目標や指導方針が、保護者はもちろんのこと、地域住民にも理解されていると同時に、地域もまた、学校運営に対して様々な要望や提言を行うことが可能な状態が保たれていることが今望まれている。学校長はリーダーシップを発揮して学校が存在する地域の環境を生かし、地域の方々の力をお借りして、“特色ある学校づくり”、“魅力ある学校づくり”に取り組むことが求められている。

#### (2) 学校の適正規模から見た望ましい学校づくり

児童・生徒の成長にとって必要とされる教育集団の場が、どの程度の学校規模、どの程度の学級規模であることが最も適正であるかを、児童・生徒の立場にたって慎重に検討する必要がある。

上記の二つの観点から、検討を進めた。

### 2 児童・生徒数の著しい減少とますます小規模化する市内の小中学校

全国的に少子高齢化が進む中で、当市においてもその傾向は著しい。出生数の低下により小学校の入学者も減少し、平成20年度には入学児童数が200人を切る状況にある。

平成20年度の入学児童数は、昭和35年(1960年・45年前)の勝山市の出生数704人と比べると、3分の1弱まで減少している。

また、平成19年1月に成人式を迎えた若者は339人であるのに比べて、平成18年の0歳児数は195人となっており、この20年間で42%も減少したことになる。

11ページの“各小学校の平成18年～平成24年の児童数の推移”のとおり、平成24年度には、複数の複式学級を持つ小学校が3校存在するようになるし、細野分校は、平成21年度に1人だけの学級ができる。また全小学校の合計では、7学級、

255人(18%)が減少してしまう。中学校では、12ページの“各中学校の平成18年～平成30年の生徒数の推移”のとおり、平成30年には、3中学校で5学級、225人(28%)減少する。

### 3 望ましい学校・学級規模

教育環境の面から、望ましい学級・学校の規模とは、どのような規模をいうのであろうか。適正規模の学校においては、児童・生徒が多様な人間関係の中で切磋琢磨することができ、また、クラス替えによりいろいろな人間関係をつくり出すことができると考えられる。

学級人数の適性規模の目安は30人程度である。最低規模は、20人程度が必要である。一般的に小学校では、コミュニケーションを図るには、司会者や記録者もいるので、1グループ5～6人が必要になる。また、グループ数を考えたとき、6人程度のグループが最低3つあることにより、グループ内の競争や深め合いが可能になる。

こうしたことがかなわない場合でも、1学年には、最低5～6人の1グループは必要であり、少なくとも6学年で30人程度の学校とすることが望まれる。

また、中学校では、現行の学級編制基準から考えて、1学年4学級の12学級あれば、全教科専門の教員がそろふ。1学年3学級では、教員免許はあるが、専門でない教員が教える教科が1教科でき、1学年2学級では、2教科できる。また、学年4学級の12学級あれば、教員数や生徒数から考えて、選択教科を増やすことができるし、部活動においても運動部が6～9部、文化部が2～3部程度設置できるため、県内の中学校に於いて平均的に設置されている部活動が可能になり、生徒のニーズにある程度応じることができる。このことから、12学級370人以上の学校規模が、適正規模と考えられる。

### 4 小規模校と地域の関係

児童数の減少により、小規模な小学校では、複式学級の児童数が、将来は、2学年併せて数名になることが予想され、効果的な集団教育を行う限界にまで、達しようとしており、望ましい教育環境を維持する面から、新たに学校統廃合問題が上がってきている。

現状では、地区ごとに小学校が存在しながら、年々若い人が地域から離れる現実がある。将来の学校の規模に不安を感じての転出もあろうが、遠距離通勤や地域での生活に不便さを感じないなど様々な理由での転出もある。

学校統廃合問題に対して、学校と地域は関係が深いので、学校が無くなることは、地域の存亡にかかわる重大問題と考える年輩の方々と、子どもの教育のためには統廃合もやむを得ないと考える人の意見の分かれるところである。小規模の小学校が存在する地域では、地域に学校があるために保護者が子どもを連れて転出する実態も見られる。若い人が安心して住み続ける地域づくりをすることが、一定の児童数の確保にも繋がる。

## 5 検討委員会の最終意見を受けて

検討委員会では、勝山市の望ましい将来的な姿として、小学校は、1学年2学級以上になる学校として、小学校を3校にする。又、中学校においては、1学年4学級以上になる学校として、1~2校に統合することが望ましいとした。今後、児童・生徒が一定の数を切った時、あるいは統廃合を望む意見が出た時には、該当校区で統廃合時期を検討することになるが、小規模の学校が存在する校区では、これからの地域を支える若い世代の意見も積極的に受け入れ、学校統廃合の時期について真剣に検討されることを願うものである。

## 検討委員会の経過報告

平成16年7月7日から平成18年11月30日まで、計15回の委員会を持った。各委員は、児童生徒の著しい減少を改めて認識するとともに、この問題を勝山市の将来にかかわる重要な問題との認識のもとに、真剣に討議を重ねた。

16年度は、地域の方々の意見を学校教育の中に反映させるとともに、地域の教育力を活用し、地域に開かれた望ましい学校のあり方について意見交換した。また、子どもの数が大きく減少していることから、実態を市民に説明し意見を聞くこと及び将来極めて小規模の学校ができるので、学級・学校の望ましい規模を検討する必要があるとの結論に達した。

17年度は、16年度中間報告を受けて、市民対話集会・各地区住民対話集会や市P連と幼稚園・保育園保護者との対話集会を積極的に開催して、各学校別の児童生徒の推移を説明するとともに、今後の学校の望ましいあり方について広く市民の方々のご意見をお聞きした。また、小中PTAを対象に各学校で説明会を行うとともに、小学校統廃合モデル2案を作り、アンケート調査を実施した。さらに特別認定校の視察や他自治体の学校統廃合の事例調査もおこなった。

これらの調査報告を受け検討委員会では、学校の統廃合の問題は地域のあり方の問題とも大きく関連してくるため、“学校と地域の関わり”についても考えた。また望ましい学校教育を進めていくには、子供たちにとって魅力のある学校をつくるとともに、“学校はどの程度の児童・生徒が必要であるか”について検討を深めた。その結果、全校生徒が一定の数を切った時、小学校の統廃合を行うことで意見の一致を見た。今後統廃合から派生する諸問題についても検討し、18年度末には、検討委員会としての方針を決めることとした。

18年度は、広く意見をお聞きするために、小中学校保護者やこれから子どもが小学校に入学するする幼稚園・保育園の保護者また各地区の方などを対象に検討委員を増やして27人とし、過去2年間の検討結果を基にして、さまざまな角度から検討をして頂いた。

少人数でも学校を存続させたいとする意見や統廃合をした時は通学の交通の確保を求め意見も多くあった。また荒土小細野分校は、早急に本校へ統合するべきとの意見も多かった。

小中学校保護者対象アンケート調査結果では、“児童数の減少から見ると、将来統廃合もやむを得ない”及び“積極的に統廃合を進める”と答えた人が76%である。また、幼稚園・保育園保護者を対象としたアンケート調査では、81%である。これらアンケート調査結果等も参考にして、第4回の委員会で、将来の望ましいあり方として、統廃合モデル(複式学級解消型又は1学年複数学級型)を基本にして取りまとめをすることとした。

第5回の総括討議で、勝山市の望ましい将来の姿として、小学校を3校に、中学校を1~2校にすることが望ましいとした。そして、実際の統廃合にあたっては、学校が一定の数を切った時又は統廃合を望む意見がある時に、該当校区で検討委員会を立ち上げ、検討委員会で意見を集約した段階で審議会を設置することとした。さらに、統廃合実施にあたっては、地域の同意を必要とすることを盛り込んだ。

## 小中学校の望ましいあり方検討委員会の最終報告

- 1 地域に開かれた特色ある学校を作るために、総合的な学習の時間や学校行事等で地域人材を積極的に活用し、地域と学校の間をより深め、地域に開かれた特色ある学校づくりを進める。
- 2 検討委員会では、過去3年間にわたり、以下の検討を行ってきた。  
校区内の子ども数が大きく減少している現実を説明し、広く意見を聞くために、各地区、市PTA連合会、小・中学校の保護者、幼稚園・保育園の保護者との対話集会を開き、各対話集会で出されたことについて検討してきた。  
小学校の統廃合のモデル3案を作り、それぞれの学校規模によるメリット・デメリットについて比較検討した。統廃合のモデル3案を基に、市内全幼稚園、保育園、小学校、中学校の保護者を対象に、「小・中学校の統廃合に関するアンケート」を実施し、参考資料として検討を行った。  
県外の特認校制度の視察調査や他自治体の学校統廃合の事前調査を行い、勝山市の統廃合を考えるための参考とした。  
勝山市民に、「小・中学校の望ましいあり方」について理解を得るために、積極的に集会やホームページで情報を公開し、広く意見を聞いてきた。
- 3 勝山市の望ましい将来的な形として、小学校においては、1学年2学級以上になる学校として、市内の小学校を3校とすることが望ましい。  
また、中学校においては、1学年に4学級以上ある学校に統廃合することが望ましい。
- 4 小学校は、全校児童数が30人を続けて切る時、又は30人以上であっても統廃合を望む意見がある時は、その該当校区で検討委員会を設置する。  
中学校においては、1学年2学級を続けて切る時、又は1学年2学級以上であっても統廃合を望む意見がある時は、当該校区で検討委員会を設置する。  
そして当該校区で意見を集約した段階で、審議会を設置するかどうかを検討する。ただし、統廃合を実施する場合には、地域の同意と長期的な展望が必要である。
- 5 小・中学校の統廃合を行うにあたっては、単に数あわせの統廃合をするだけでなく、勝山市の新しい小・中学校をつくるという考えから行っていくものとする。
- 6 小・中学校の統廃合を進めるにあたっては、児童・生徒の通学方法等、各集会で出された要望や課題も考慮し慎重に検討する。

平成18年度勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会委員

委員長 多田誠治 副委員長 安岡 明治 (順不同・敬称略)

	区 分	職 名 等	氏 名
1	市区長連合会	遅羽町区長会長	仲村 保
2		村岡町区長会長	笠川 剛士
3	学識経験者	市商工会議所会頭	荒井 由泰
4		医師	河北 美紀子
5		児童文学作家	平泉和美(大庭 桂)
6	市小中学校校長会	市中学校校長会会長	安岡 明治
7		市小学校校長会会長	竹原 幸雄
8	市壮年連絡協議会	市壮年連絡協議会会長	山川 榮次
9	市連合婦人会	勝山婦人会会長	島田 千代
10	平泉寺町まちづくり推進協議会	平泉寺町まちづくり推進協議会アドバイザー	福田 稔
11	野向町次世代育成アクションプラン推進委員会	野向町次世代育成アクションプラン推進委員会会長	西出 信夫
12	荒土町次世代育成アクションプラン推進委員会	荒土町次世代育成アクションプラン推進委員	島田 亜古
13	北郷町まちづくり委員会	北郷町まちづくり委員	秦 亜矢子
14	鹿谷町まちづくり協議会	鹿谷町まちづくり協議会部長	伊藤 史朗
15	市公民館運営審議会	勝山公民館運営審議委員	山本 英樹
16	市PTA連合会	平泉寺小学校PTA会長	村上 弘
17		野向小学校 "	山本 清隆
18		荒土町小学校 "	山内 亮二
19		北部中学校 "	玉崎ちあき
20		中部中学校 "	和田 耕三
21	市幼稚園父母の会連合会	成器北幼稚園父母の会会長	前田 達哉
22		成器北幼稚園父母の会副会長	澤 充
23	公立保育園父母の会連合会	公立保育園父母の会連合会会長	廣田 栄一
24		平泉寺保育園父母の会会長	大林 裕治
25	私立保育園保護者連合会	私立保育園保護者連合会会長	田鳥 瑞樹
26		しろき保育園父母の会会長	畑中 保彦
27	市教育委員会	教育委員会委員長	多田 誠治

平成16年度勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会委員

委員長 多田誠治 副委員長 酒井邦春 (順不同・敬称略)

番号	区分	職名等	氏名
1	市区長連合会	北郷町区長会長	島田 典幸
2		荒土町区長会長	山内 俊成
3	学識経験者	市商工会議所会頭	荒井 由泰
4		小児科医師	河北 美紀子
5		児童文学作家	平泉和美(大庭 桂)
6	市小中学校校長会	中学校校長会長	南部 勇
7		小学校校長会長	酒井邦春
8	市PTA連合会	平泉寺小学校PTA会長	杉山礼次郎
9		勝山南部中学校PTA会長	山内 澄
10	幼稚園父母の会連合会	成器南幼稚園父母の会	澤 充
11	保育園父母の会連合会	野向保育園父母の会	小泉 多加江
12	市教育委員会	教育委員会委員長	多田 誠治

平成17年度勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会委員

委員長 多田誠治 副委員長 竹原幸雄 (順不同・敬称略)

番号	区分	職名等	氏名
1	市区長連合会	村岡町区長会長	笠川 剛士
2		荒土町区長会長	堀内 博
3	学識経験者	市商工会議所会頭	荒井 由泰
4		小児科医師	河北 美紀子
5		児童文学作家	平泉和美(大庭 桂)
6	市小中学校校長会	中学校校長会長	南部 勇
7		小学校校長会長	竹原 幸雄
8	市壮年連絡協議会	遅羽町壮年会会長	坂東 昭治
9	市公民館運営審議会	勝山公民館運営審議委員	山本 英樹
10	市PTA連合会	鹿谷小学校PTA会長	伊藤 史朗
11		勝山南部中学校PTA会長	山内 澄
12	市幼稚園父母の会連合会	北幼稚園父母の会副会長	澤 充
13	市保育園父母の会連合会	しろき保育園父母の会会長	山内 公夫
14	市内在住青年	大学生	山崎 祥子
15	市教育委員会	教育委員会委員長職務代理者	多田 誠治

## 対話集会・説明会等と作成資料

### 1 対話集会・説明会等

- ・市民対話集会 勝山市民会館（平成17年5月30日）
- ・住民対話集会・各公民館単位9地区  
各市立公民館・教育会館（平成17年7月13日～8月23日）
- ・小学校統廃合について視察 旧美山町（平成17年7月18日）
- ・特別認定校視察 小松市西尾小学校（17年11月15日）
- ・市教委と市PTA連合会代表の対話集会 教育会館（平成17年11月22日）
- ・小中学校保護者説明会とアンケート調査依頼 各小中学校（17年12月19日～21日）
- ・市教委と幼稚園、公私保育園保護者代表の対話集会 教育会館（18年1月30日）
- ・幼稚園保護者説明会とアンケート調査依頼 教育会館（平成18年7月12日）
- ・公立保育園保護者説明会とアンケート調査依頼  
各保育園（平成18年6月23日～9月3日）
- ・市PTA連合会との対話集会 教育会館（平成18年12月5日）

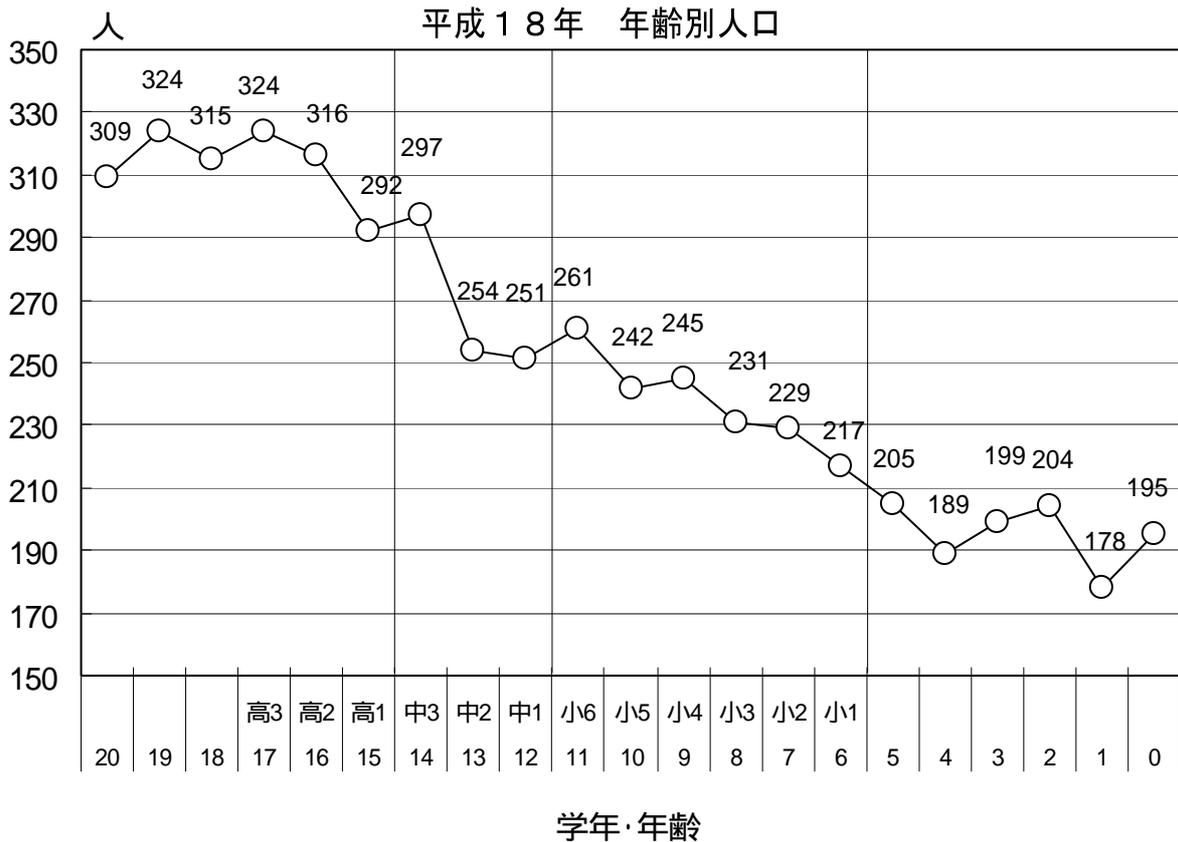
### 2 作成資料

- ・各小学校の児童数の推移
- ・勝山市の年齢別人口
- ・各校区 年齢別・男女別人口
- ・各校区・地区 年齢別幼児・児童数
- ・各校区・地区 年齢別人口
- ・学校規模によるメリット・デメリットについて
- ・近年の学校統廃合の事例
- ・県内各市の統廃合計画の状況
- ・南条郡及び旧美山町の学校統廃合について
- ・小学校統廃合モデルによるアンケート調査票(幼・保・小中保護者対象)
- ・小学校統廃合モデルによるアンケート調査結果について(幼・保・小中保護者対象)
- ・各校区別 過去20年間の年齢階層別人口の推移
- ・各中学校の平成18年～30年の生徒数の推移
- ・各中学校の平成18年～平成30年の生徒数・学級数の推移
- ・平成18年までの各中学校の生徒数推移と平成18年以降の推計
- ・各中学校の平成18年と平成30年との生徒数の比較
- ・市内中学校統合の平成18年度～平成30年度の生徒数の推移
- ・各中学校平成18年度教職員配置及び部活動の状況
- ・平成16年度中間報告書
- ・平成17年度中間報告書

## 各小学校の平成18年～平成24年の児童数の推移

校 区	年 齢	平成24年見込							計	学級数	平成18年現在							計	学級数
		0	1	2	3	4	5	6			7	8	9	10	11				
南部中 校 区	平泉寺	9	1	6 複式	3	8 複式	7	34	4	8	9	9	10	12	17	65	6		
	成器南	63	60	62	67	74	72	398	12	74	80	79	84	83	78	478	15		
	三室	8	6	4 複式	6	5 複式	4	33	4	7	5 複式	8	9 複式	4	12	45	4		
中部中 校 区	成器西	37	29	44	35	28	32	205	7	31	39	38	45	36	56	245	8		
	村岡	33	34	27	34	28	39	195	7	39	38	37	41	41	46	242	9		
	野向	6	6	9 複式	1	7 複式	8	37	4	7	4	8 複式	2	6 複式	3	30	4		
北部中 校 区	荒土	7	9	16	22	11	15	80	6	13	17	20	22	26	13	111	6		
	細野分校	1 複式	1	1	/	/	/	3	2	2 複式	3	/	/	/	5	1			
	鹿谷	14	20	20	16	14	17	101	6	16	20	18	17	18	18	107	6		
	北郷	17	12	15	15	14	11	84	6	20	17	11	15	16	18	97	6		
合 計	195	178	204	199	189	205	1170	58	217	229	231	245	242	261	1425	65			

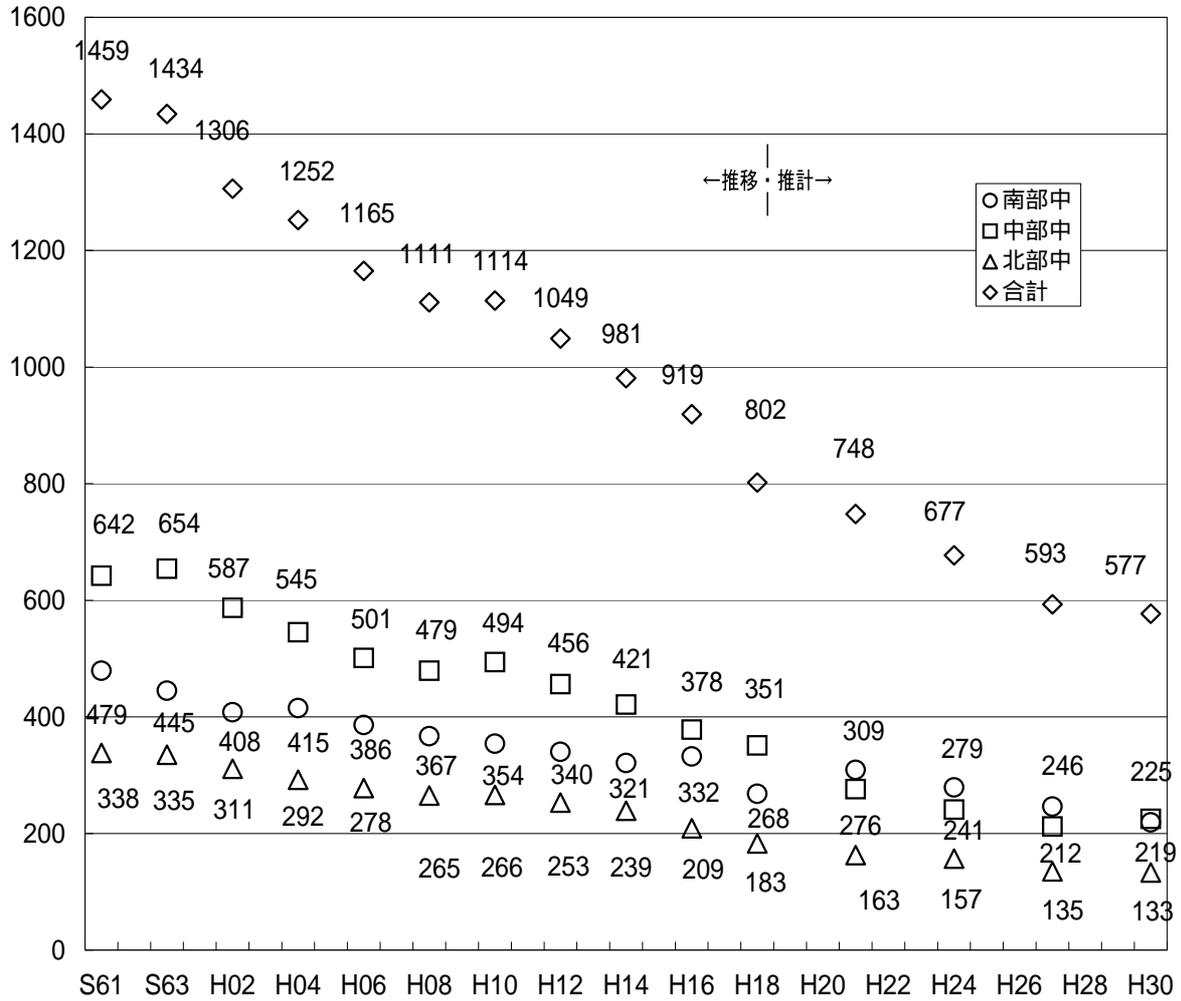
複式 は複式学級を示しています。複式学級は隣接する2つの学年を合わせて16人以下の場合に編制されます。ただし、第1学年を含む場合には、第2学年との合計人数が8人以下の場合に編制されます。



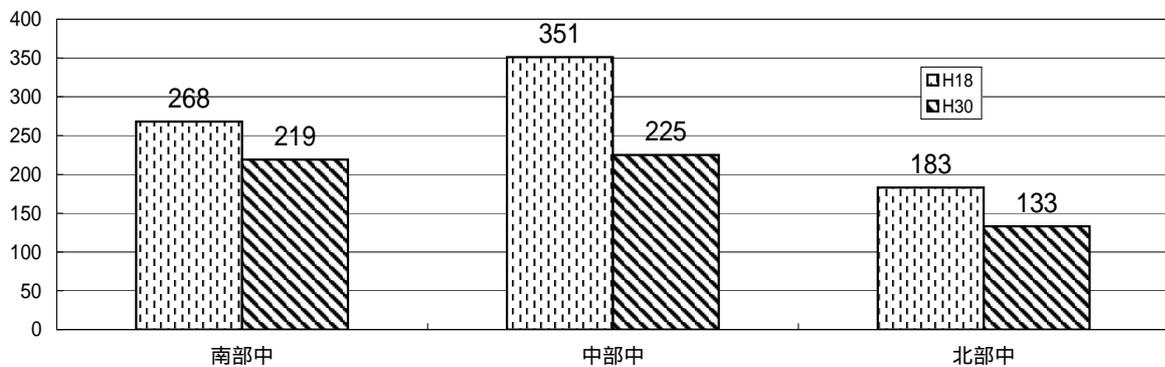
各中学校の平成18年～平成30年の生徒数の推移

学 校	年 齢	平成30年			平成27年			平成24年			平成21年			平成18年(現在)		
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
南部中 学 校	平泉寺	9	1	6	3	8	7	8	9	9	10	12	17	13	6	18
	成器南	63	60	62	67	74	72	74	80	79	84	83	78	57	61	82
	三 室	8	6	4	6	5	4	7	5	8	9	4	12	15	6	10
	学年人数	80	67	72	76	87	83	89	94	96	103	99	107	85	73	110
	学級数	3	2	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	2	3
	学校人数	219人			246人			279人			309人			268人		
中部中 学 校	成器西	37	29	44	35	28	32	31	39	38	45	36	56	55	74	62
	村 岡	33	34	27	34	28	39	39	38	37	41	41	46	47	41	53
	野 向	6	6	9	1	7	8	7	4	8	2	6	3	3	11	5
	学年人数	76	69	80	70	63	79	77	81	83	88	83	105	105	126	120
	学級数	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4
	学校人数	225人			212人			241人			276人			351人		
北部中 学 校	荒 土	8	10	17	22	11	15	15	17	23	22	26	13	19	22	29
	鹿 谷	14	20	20	16	14	17	16	20	18	17	18	18	18	15	17
	北 郷	17	12	15	15	14	11	20	17	11	15	16	18	24	19	20
	学年人数	39	42	52	53	39	43	51	54	52	54	60	49	61	56	66
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	学校人数	133人			135人			157人			163人			183人		
合 計		195	178	204	199	189	205	217	229	231	245	242	261	251	255	296
		577人			593人			677人			748人			802人		

平成18年までの中学校生徒数推移と平成18年度以降の推計



平成18年と平成30年との生徒数の比較



# 平成18年 各校区・地区 年齢別人口

学校区	学年・年齢 地区	平成24年 児童数見込(現0～5歳)						
		1年 0歳	2年 1歳	3年 2歳	4年 3歳	5年 4歳	6年 5歳	計
平泉寺小学校 校区	平泉寺	5	1	1	2	4	1	14
	赤尾	1	0	2	0	1	0	4
	笹尾	1	0	0	0	0	1	2
	大渡	1	0	1	0	1	2	5
	壁倉	1	0	1	1	0	1	4
	岩ヶ野	0	0	1	0	1	1	3
	大矢谷	0	0	0	0	0	0	0
	小矢谷	0	0	0	0	0	0	0
	神野	0	0	0	0	1	0	1
	経塚	0	0	0	0	0	1	1
	上野	0	0	0	0	0	0	0
	池ヶ原	0	0	0	0	0	0	0
	合計	9	1	6	3	8	7	34
成器南小学校 校区	元町2	7	3	7	6	5	3	31
	元町3	6	6	3	7	10	6	38
	旭町1	1	4	4	6	4	2	21
	旭町2	9	7	8	9	7	13	53
	旭毛屋町	10	11	11	12	17	14	75
	立川町1	5	3	6	4	3	7	28
	立川町2	0	0	0	1	2	0	3
	本町4	1	2	3	0	0	7	13
	上芳野	0	1	0	0	0	0	1
	猪野口	2	0	0	1	0	0	3
	若猪野	4	3	1	2	3	2	15
	高島	1	4	2	3	2	3	15
	毛屋	3	4	3	2	6	5	23
	西高島	0	0	0	0	0	0	0
	猪野	3	4	3	6	3	3	22
	片瀬	3	4	3	1	5	4	20
片瀬町	8	3	8	7	7	3	36	
岡横江	0	1	0	0	0	0	1	
合計	63	60	62	67	74	72	398	
三室小学校 校区	下荒井	0	0	0	0	0	0	0
	嶗崎	3	3	0	1	0	0	7
	大袋	2	1	0	3	1	1	8
	新道	1	1	3	1	1	2	9
	北山	1	0	0	0	1	0	2
	蓬生	0	0	0	0	0	1	1
	中島	0	0	1	0	0	0	1
	千代田	0	1	0	0	2	0	3
	比島	1	0	0	1	0	0	2
合計	8	6	4	6	5	4	33	
南部中校区合計	80	67	72	76	87	83	465	

平成18年4月1日現在の人数から算出  
平成18年 児童数(現6～11歳)

1年 6歳	2年 7歳	3年 8歳	4年 9歳	5年 10歳	6年 11歳	計
4	3	6	5	5	3	26
2	1	1	1	1	3	9
1	1	0	1	1	2	6
0	0	0	0	1	2	3
0	1	1	0	1	2	5
0	2	0	2	2	2	8
0	0	0	0	0	0	0
0	1	1	0	0	0	2
1	0	0	0	1	0	2
0	0	0	0	0	3	3
0	0	0	1	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0
8	9	9	10	12	17	65
7	9	5	8	8	16	53
7	6	3	7	9	6	38
7	3	8	3	9	5	35
7	11	7	13	11	13	62
12	17	11	14	18	12	84
7	7	5	12	0	2	33
2	1	0	0	1	1	5
0	1	7	3	3	2	16
0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	1	0	2
4	2	2	2	4	2	16
1	2	3	1	0	1	8
6	5	5	7	6	2	31
0	0	0	1	0	0	1
5	5	6	4	3	3	26
0	4	3	4	1	3	15
6	6	11	4	6	8	41
2	1	3	1	3	2	12
74	80	79	84	83	78	478
1	2	0	2	0	1	6
0	0	0	1	0	1	2
2	0	2	0	0	0	4
2	0	2	2	1	6	13
1	2	0	0	0	1	4
0	0	1	2	2	1	6
1	0	2	1	0	0	4
0	1	1	1	1	1	5
0	0	0	0	0	1	1
7	5	8	9	4	12	45
89	94	96	103	99	107	588

平成18年 各校区・地区 年齢別人口

学校区	学年・年齢 地区	平成24年 児童数見込(現0～5歳)						計
		1年 0歳	2年 1歳	3年 2歳	4年 3歳	5年 4歳	6年 5歳	
成器西小学校 校区	元町1	4	5	2	4	6	2	23
	昭和町1	2	2	3	0	4	4	15
	昭和町2	0	0	3	0	2	0	5
	昭和町3	2	4	2	4	3	1	16
	本町1	4	2	2	5	2	5	20
	本町2	1	1	2	2	0	3	9
	本町3	0	0	1	0	2	1	4
	栄町1	0	1	1	1	0	0	3
	栄町2	1	3	2	1	0	1	8
	栄町3	3	0	4	0	3	0	10
	栄町4	3	2	4	3	2	2	16
	栄町5	1	3	2	0	0	1	7
	沢町1	0	2	2	2	0	1	7
	沢町2	8	1	6	5	3	8	31
	芳野町1	3	1	1	5	0	1	11
芳野町2	5	2	7	3	1	2	20	
区域外								
合計		37	29	44	35	28	32	205
村岡小学校 校区	郡町1	6	2	4	8	4	7	31
	郡町2	6	8	4	5	6	7	36
	長山町1	3	2	1	2	1	2	11
	長山町2	3	2	1	6	3	4	19
	滝波	0	2	0	0	1	1	4
	郡	0	0	2	0	0	0	2
	五本寺	2	0	0	0	1	0	3
	黒原	0	1	1	0	0	0	2
	板神谷	0	1	1	1	0	1	4
	暮見	0	0	0	0	0	1	1
	寺尾	1	1	0	0	0	2	4
	浄土寺	0	3	1	1	1	2	8
	滝波町1	0	0	1	0	0	1	2
	滝波町2	1	4	4	1	5	2	17
	滝波町3	3	3	1	2	2	3	14
	滝波町4	2	3	3	3	3	2	16
	滝波町5	6	0	3	5	1	4	19
	中尾	0	0	0	0	0	0	0
	北六呂師	0	1	0	0	0	0	1
河合	0	0	0	0	0	0	0	
木根橋	0	1	0	0	0	0	1	
小原	0	0	0	0	0	0	0	
谷	0	0	0	0	0	0	0	
杉山	0	0	0	0	0	0	0	
合計		33	34	27	34	28	39	195
野向小学校 校区	龍谷	5	2	5	0	4	3	19
	竹林	0	0	1	0	1	0	2
	聖丸	1	2	1	1	0	1	6
	深谷	0	0	0	0	1	1	2
	薬師神谷	0	1	2	0	1	1	5
	牛ヶ谷	0	0	0	0	0	0	0
	北野津又 横倉	0	1	0	0	0	2	3
合計		6	6	9	1	7	8	37
中部中校区合計		76	69	80	70	63	79	437

平成18年4月1日現在の人数から算出

学校区	学年・年齢 地区	平成18年 児童数(現6～11歳)						計
		1年 6歳	2年 7歳	3年 8歳	4年 9歳	5年 10歳	6年 11歳	
成器西小学校 校区	元町1	2	6	5	5	2	5	25
	昭和町1	2	5	7	4	8	6	32
	昭和町2	2	1	2	2	2	4	13
	昭和町3	2	3	3	4	4	8	24
	本町1	2	1	2	5	3	2	15
	本町2	3	0	3	3	0	4	13
	本町3	2	3	1	2	1	2	11
	栄町1	1	0	2	0	0	0	3
	栄町2	1	3	0	1	1	0	6
	栄町3	1	0	1	2	0	5	9
	栄町4	4	5	1	3	5	2	20
	栄町5	0	0	0	1	0	0	1
	沢町1	1	0	0	1	1	3	6
	沢町2	4	7	6	6	4	5	32
	芳野町1	2	3	0	4	0	4	13
芳野町2	2	2	5	2	5	6	22	
区域外	0	0	0	0	0	0	0	
合計		31	39	38	45	36	56	245
村岡小学校 校区	郡町1	4	3	6	3	3	6	25
	郡町2	9	10	6	10	14	14	63
	長山町1	1	0	5	0	2	0	8
	長山町2	6	6	5	3	4	6	30
	滝波	1	1	0	2	0	0	4
	郡	0	0	0	0	0	0	0
	五本寺	1	0	1	0	1	0	3
	黒原	0	1	0	0	0	2	3
	板神谷	2	0	0	1	1	0	4
	暮見	0	0	1	0	1	1	3
	寺尾	0	2	2	3	2	2	11
	浄土寺	4	4	1	3	1	1	14
	滝波町1	0	1	1	4	2	1	9
	滝波町2	3	3	0	6	2	4	18
	滝波町3	3	1	6	1	3	4	18
	滝波町4	1	2	0	1	2	1	7
	滝波町5	3	4	3	4	3	4	21
	中尾	0	0	0	0	0	0	0
	北六呂師	1	0	0	0	0	0	1
河合	0	0	0	0	0	0	0	
木根橋	0	0	0	0	0	0	0	
小原	0	0	0	0	0	0	0	
谷	0	0	0	0	0	0	0	
杉山	0	0	0	0	0	0	0	
合計		39	38	37	41	41	46	242
野向小学校 校区	龍谷	1	1	4	1	2	1	10
	竹林	1	0	0	0	0	0	1
	聖丸	1	0	0	0	0	1	2
	深谷	2	2	2	0	0	1	7
	薬師神谷	2	0	0	0	1	0	3
	牛ヶ谷	0	0	0	0	0	0	0
	北野津又 横倉	0	0	2	1	3	0	6
合計		7	4	8	2	6	3	30
中部中校区合計		77	81	83	88	83	105	517

# 平成18年 各校区・地区 年齢別人口

学校区	学年・年齢 地区	平成24年 児童数見込(現0～5歳)						
		1年 0歳	2年 1歳	3年 2歳	4年 3歳	5年 4歳	6年 5歳	計
荒土小学校 校区	松田	0	2	1	2	0	0	5
	田名部	1	0	0	0	0	0	1
	布市	0	0	1	0	0	1	2
	清水島	0	1	2	3	0	1	7
	北新在家	0	0	1	0	2	1	4
	別所	0	1	2	1	0	1	5
	境	0	1	1	1	2	0	5
	戸倉	1	0	0	0	0	0	1
	西ヶ原	0	0	0	0	0	0	0
	新道	0	0	0	0	0	1	1
	細野口	0	1	2	0	1	2	6
	北宮地	1	0	0	3	1	1	6
	堀名	1	0	1	1	1	1	5
	中清水	0	0	1	2	1	0	4
	伊波	0	2	2	1	0	1	6
妙金島	1	0	0	2	0	2	5	
新保	0	2	2	4	3	3	14	
松ヶ崎	3	0	1	2	0	0	6	
合計		8	10	17	22	11	15	83
鹿谷小学校 校区	保田	5	2	2	2	1	6	18
	西光寺	0	0	2	1	1	0	4
	北西俣	2	3	4	1	5	2	17
	矢戸口	0	1	2	1	1	2	7
	本郷	0	2	1	2	1	1	7
	西遅羽口	0	1	0	1	0	1	3
	東遅羽口	2	2	0	2	0	0	6
	杉俣	0	0	0	1	1	0	2
	志田	2	5	7	1	1	2	18
	発坂	1	2	0	2	1	2	8
	出村	2	2	2	2	2	1	11
合計		14	20	20	16	14	17	101
北郷小学校 校区	西妙金島	3	0	0	1	1	0	5
	檜曾谷	0	1	0	1	0	0	2
	新町	0	0	0	0	1	1	2
	志比原	1	0	2	0	1	0	4
	上森川	1	1	1	1	1	0	5
	下森川	1	1	3	2	0	0	7
	東野	5	2	2	2	3	3	17
	伊知地	3	5	3	4	5	4	24
	坂東島	3	0	4	3	2	3	15
	上野	0	2	0	1	0	0	3
	岩屋	0	0	0	0	0	0	0
合計		17	12	15	15	14	11	84
北部中校区合計		39	42	52	53	39	43	268

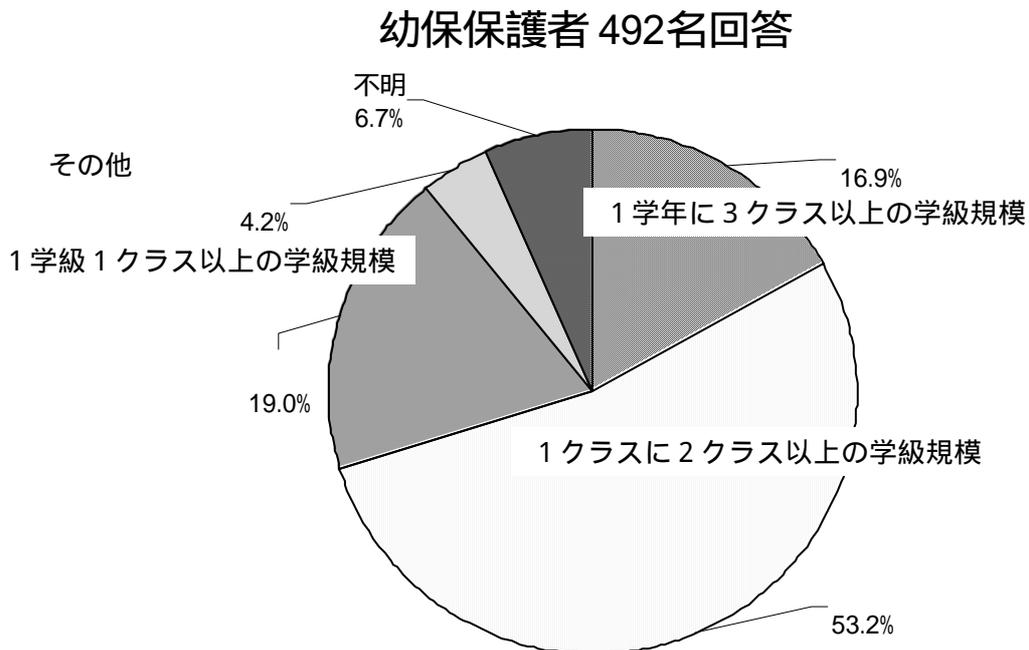
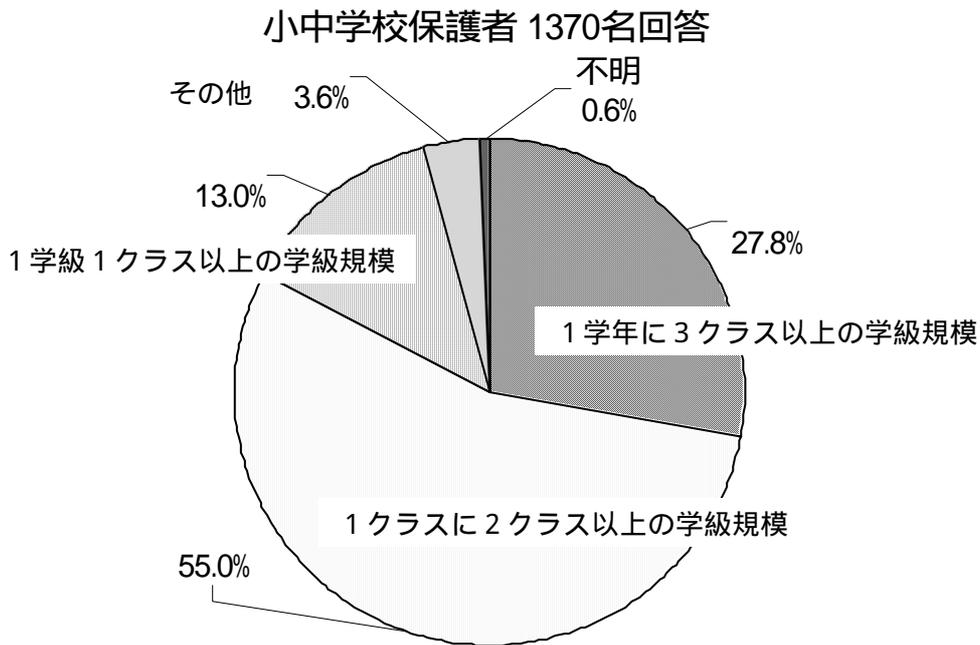
平成18年4月1日現在の人数から算出  
平成18年 児童数(現6～11歳)

1年 6歳	2年 7歳	3年 8歳	4年 9歳	5年 10歳	6年 11歳	計
1	1	1	1	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0
1	1	3	1	0	2	8
0	1	0	1	0	0	2
1	1	0	1	2	0	5
2	1	1	1	0	0	5
1	0	0	2	1	2	6
0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	2	0	1	5
0	0	2	0	1	0	3
0	0	1	1	3	0	5
1	1	3	2	2	3	12
2	2	2	1	1	0	8
0	1	0	0	0	1	2
2	2	3	5	8	4	24
0	1	2	2	2	0	7
1	5	4	1	6	0	17
2	0	0	1	0	0	3
15	17	23	22	26	13	116
0	6	3	6	3	4	22
1	1	0	1	1	0	4
2	2	2	2	0	1	9
1	1	2	3	2	2	11
1	2	2	1	3	2	11
2	1	2	0	0	1	6
0	2	0	0	2	0	4
1	1	0	0	0	0	2
1	1	1	2	1	3	9
3	2	3	0	2	1	11
4	1	3	2	4	4	18
16	20	18	17	18	18	107
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	1
1	0	1	1	0	0	3
0	1	0	1	0	0	2
0	3	0	3	1	1	8
0	1	1	0	2	3	7
8	1	4	4	6	3	26
7	1	2	1	3	3	17
3	10	3	5	4	7	32
1	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0
20	17	11	15	16	18	97
51	54	52	54	60	49	320

## 小・中学校及び幼稚園・保育園保護者アンケート調査結果

問1 児童生徒の教育効果を考えると、小中学校の望ましい学級規模についてあなたはどのように考えますか。ただし、1クラスの人数は、40人までとします。

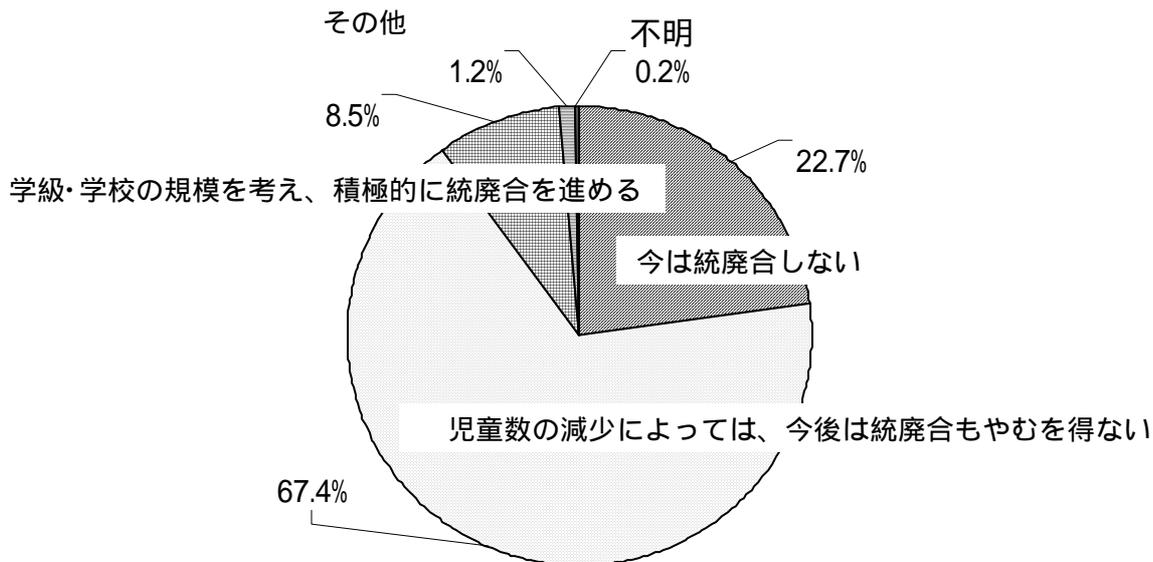
- 1学年に3クラス以上の学級規模
- 1学年に2クラス以上の学級規模
- 1学年に1クラス以上の学級規模
- その他



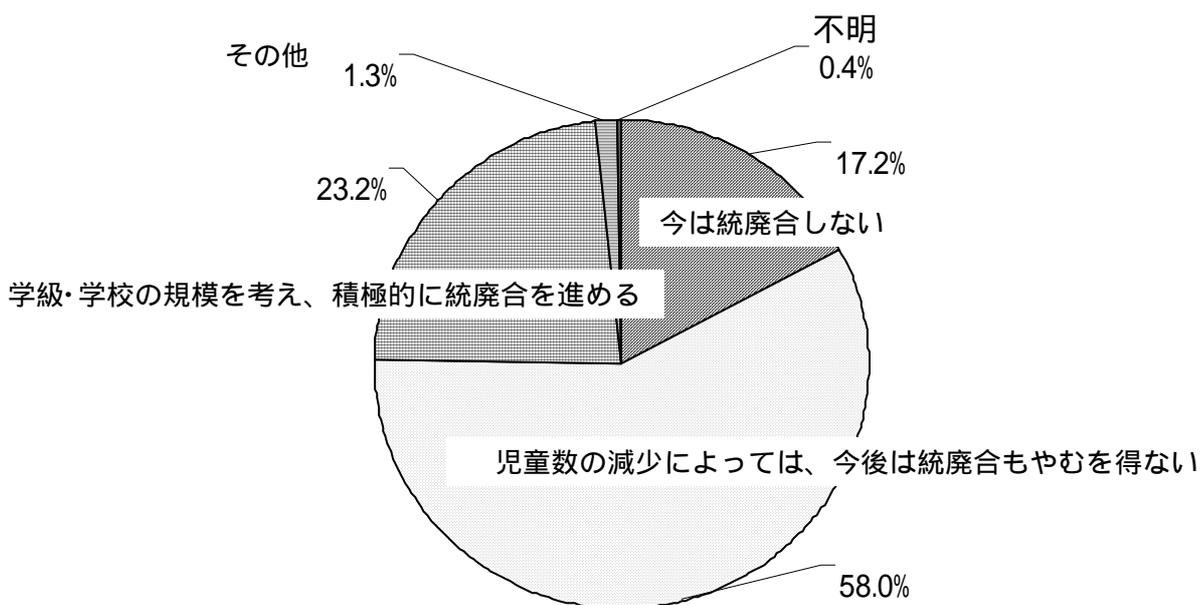
問2 勝山市の望ましいあり方の小学校の統廃合について、お尋ねします。

今は統廃合しない 児童数の減少によっては、今後は統廃合もやむを得ない  
学級・学校の規模を考え、積極的に統廃合を進める その他

小中学校保護者 1369名回答

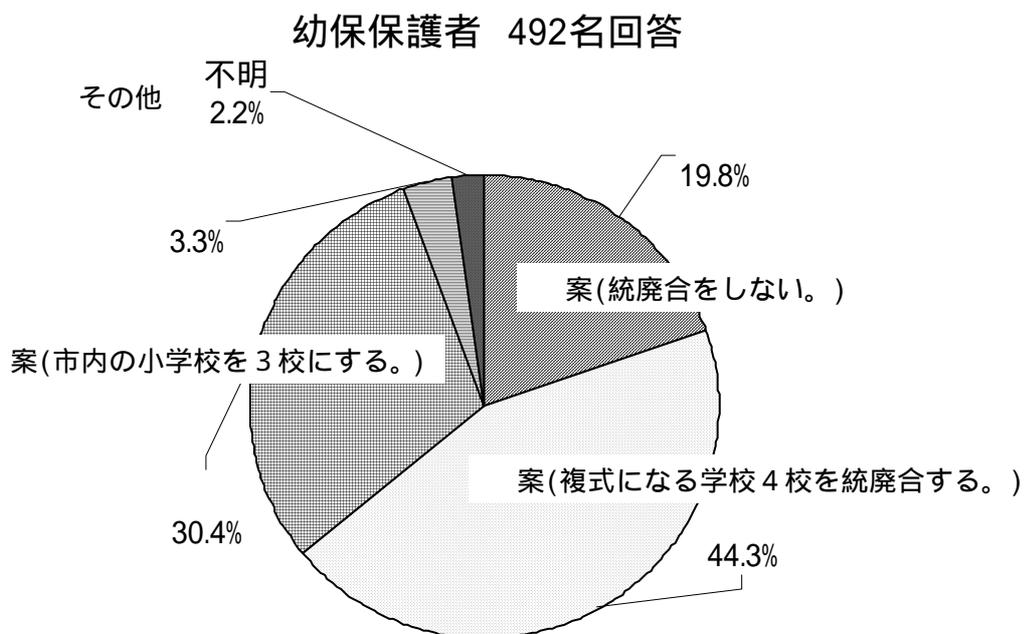
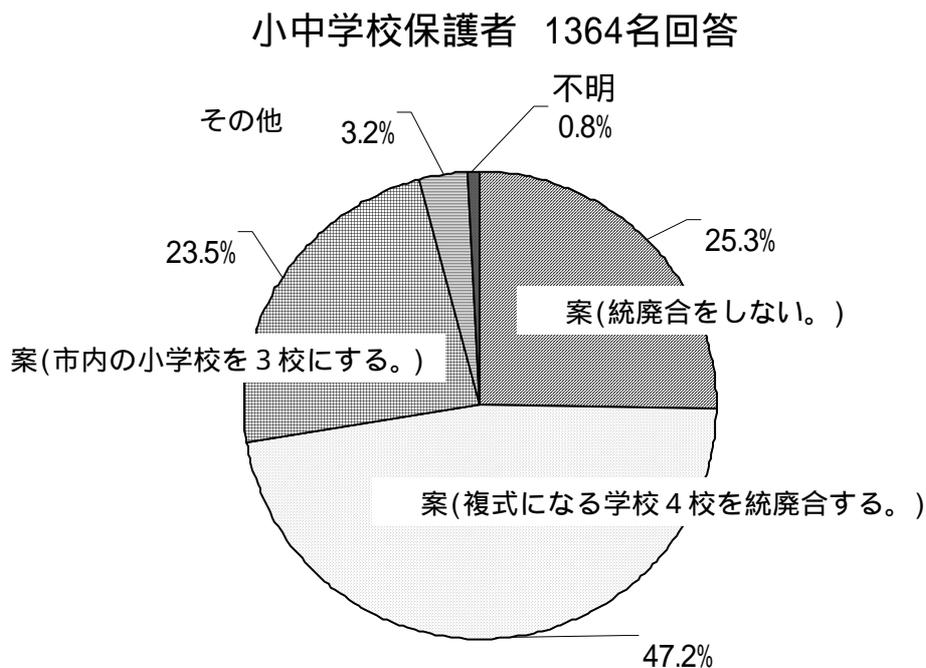


幼保保護者 492名回答



問3 勝山市の小学校の統廃合について、どう考えますか。

案(統廃合をしない。) 案(複式になる学校4校を統廃合する。) 1  
 案(市内の小学校を3校にする。) 2 その他

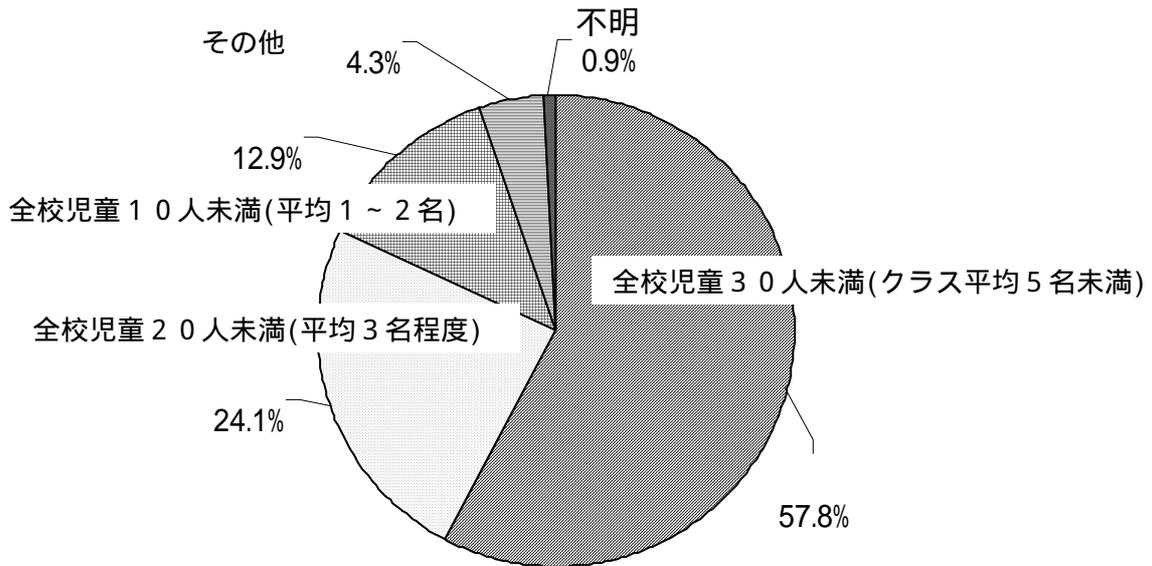


- 1 平泉寺・三室・成器南を統合、細野分校を本校に統合、野向と村岡を統合する案
- 2 全小学校を現在の中学校と同じ校区割で統合する案

問4 今後、統廃合が必要とするならば、学校人数がどれぐらいになった時と考えますか。

全校児童30人未満(クラス平均5名未満)      全校児童20人未満(平均3名程度)  
全校児童10人未満(平均1~2名)                  その他

小中学校保護者 1360名回答



幼保保護者 492名回答

